

OLIS 2010 Chinese 講義レポート

7月22日(木)

「生命保険事業概要」(OLICD Center 木村一郎氏)

日本の生命保険事業の現況とたどった歩みについて話された。業界の変化を概観した後、生保会社の経営に影響を与える環境の変化と生保業界の主な出来事について話された。

日本の生命保険事業は、1970年代と1980年代に大きな成長を遂げた。1990年以降は、経済の停滞などにより、困難な時期に直面している。

日本は、1960年代から1970年代前半に高度経済成長を遂げ、この時期に中間所得層が形成された。中間階層の形成は、生命保険の普及のための重要な要因である。

オランダの経済学者であるアンガス マディソンが主要国の2030年の一人当たりGDPの推計をしている。アジアの国々で大きな成長が予測されている。

少子高齢化を背景に、生保会社の主力商品が、保障型商品から年金や医療保険にシフトしている。高齢化により、公的医療保険、公的年金への財政負担が膨らんでおり、民間生保の役割が益々期待される。

業界の主な出来事として、「生損保の相互参入」、「中小生保の破綻」、「不払い問題」、「銀行窓販」を取り上げられた。参加者から、銀行窓販、相互会社の特徴、第一生命の株式会社化等について質問があった。